



地域猫活動のススメ ~これが地域猫活動を始めるための3つのポイントだ！

一、活動メンバーを集めるべし！

2~3人いるとイイヨ！困ったときに助け合える！



二、活動のやり方を相談すべし！

- エサは誰がやる？
- トイレはどこに置く？
- どうやって猫を捕まえる？
- どうやってみんなに知らせる？
- どうやって病院に連れていく？
- 誰が病院に連れていく？

三、周辺にお住まいの方の理解を得るべし！

自治会長さんや班長さんには相談しておこう。
糞や鳴き声で困っていることを知ってもらおう。きっと応援してくれるはず！

ここまで決まったら保健所へ相談に行こう！

ここから先の流れは裏面をチェック！

活動事例1 商店や住宅のある昔ながらの市街地

【きっかけ】この地区では、餌やりさん2名がそれぞれ野良猫に餌を与えており、10頭程度の野良猫がいました。付近に住む動物ボランティアの方がなんとかしようと、自治会にもちかけていましたが、役員の同意が得られませんでした。その後、県の助成事業を知り、相談がありました。

【活動内容とその後】保健所と市役所、町内会長、申請者、餌やりさんで話し合いを行い、活動を実施することが決定しました。近所の家には申請者が戸別訪問、または回覧板で活動することを周知しました。

猫の捕獲はそれぞれの餌やりさんに慣れていたため、スムーズにできました。

餌やりさんには、時間を決めて餌を与え、置きっぱなしにしないようにしてもらい、トイレを2か所設置し、清掃もお願いしました。

手術をしたことで、猫の性格が穏やかになり、発情期の鳴き声等の苦情がなくなったそうです。ここの地区では、猫が1頭行方不明になり、ちょっと離れたお宅で保護されていたことがありましたが、耳カットをしていたことで、活動地区の猫だということがわかり、無事もとの場所に戻ったことがあります。

活動事例2 住宅が密着した港町

【きっかけ】仕事で毎日現地を訪れている方からの相談がありました。餌やりさんが点々と存在しており、トイレの設置等はしていないため、周辺環境が悪化しており、猫の健康状態もよくない、とのことでした。

【活動内容とその後】現地を訪れると、猫の糞が路地に多数あり、臭いもありました。自治会長には申請者が責任を持つということで、了承していただきました。餌やりさんには毎日の餌やりと残った餌の清掃、トイレの設置と清掃をお願いし、きちんと実施されています。

手術後、猫の健康状態、栄養状態はよくなったとのことでした。

近隣住民から猫の糞の苦情がありましたが、申請者と保健所で説明に伺い、活動をしていること、トイレを別の場所にも設置するということが納得していただけました。

この地域は、もともと猫が多い地域なので、新たな猫の流入が多く、適宜捕獲して手術を続けているところです。



猫を飼っている方へ
お願いします

不妊去勢手術をしていない飼い猫が、外を自由に歩いていることも、野良猫が増える原因です。家族の一員である愛猫の命を守るためにも、適正な飼養をお願いします。



1. 室内で飼いましょう！ 猫エイズや猫白血病は、野良猫との喧嘩で感染します。また屋外では交通事故の危険もあります。
2. 不妊去勢手術を行いましょう！ 生殖時期のストレス軽減、スプレー行動の予防になります。
3. 迷子札やマイクロチップを装着しましょう！ もし家から逃げてしまっても、発見が容易になります。